平成28年度食のみやことっとり
キラリと光る食育推進活動 知事表彰

とっとりの食育 第5回 表彰事例集

県内では、数多くの団体が様々な視点で食育活動に自主的に取り組んでいます。
地域の特性を活かし意欲的に取り組まれている活動を表彰しましたので紹介します。

保育園における食育活動

倉吉市立社保育園

団体の概要

所在地：倉吉市国分寺 342-11
連絡先：0858-28-1755

活動の概要

「食べ物を選ぶ力」、「料理する力育て」、「元気な力がわかる力育て」、「食べ物の育ちを知る力育て」、「味がわかる力育て」、「感謝の気持ちを持つ心育て」以上のことを子どもたちが身につけてくれることを願って食育に取り組んでいる。

主な活動は、毎月の食育集会、菜園活動、クッキング、試食会、保護者への啓発活動、そして毎日の食育当番活動で、特に「年長児のクッキング活動」は平成 25 年度に実施したモデル事業以降も継続し、子ども達が食への興味関心を高め、達成感を感じ、感謝の気持ちを持つなどの体験に繋がっている。

職員・保護者はもとより、食生活改善推進員、老人クラブ、倉吉農業高校等地域の方々の協力で行う事業を年間を通して取り入れている。

工夫したこと

○科学の力を育てる

団子作りの時、マス目を作り、その上に団子をのせて数を数えたり、菜園活動では土と砂地で栽培物を育てて比較している。

○たて割りグループでの活動

玉ねぎ収穫リレーでは、年長児が年少児をいたわりながら、なかなか抜けない玉ねぎを一緒に手伝って抜く姿が見られた。

活動の成果

年長児のクッキングで子ども達は集中し、自分達でやり遂げた達成感を味わうことができた。また、活動を見学した保護者への啓発も行うことができ、当日経験したことをすぐ実践したり、お手伝いの回数が増えるなど家庭での継続した食育の取組のきっかけとなった。

受賞のポイント

- 活動目的が具体的に位置づけられ、多くの取組が系統的に組まれている。
- 食生活改善推進員や老人クラブ、農業高校など地域の機関と連携した幅広い活動を行っている。
- モデル園として取り組んだ活動は市内公立保育園への拡大につながっており、全県への応用も期待できる。

“お肉を知ろう”食育出前授業

ＪＡ全農ミートフーズ株式会社鳥取営業所

団体の概要

所在地：西伯郡大山町小竹 1291-1
連絡先：0859-54-4799

活動の概要

ＪＡ全農ミートフーズ㈱鳥取営業所は、県内で唯一と畜場を併設している㈱鳥取県食肉センター内に事務所を構えているという立地条件を活かし、子ども達に『命の大切さ』・『お肉ってどうやってできるんだろう』を正しく伝えるというコンセプトのもとに取り組んでいる。

一番大切な『食べることは「命」を頂いている』ということを、保育園児には紙芝居、小学生にはパワーポイントなどの画像等で分かりやすく伝えている。

工夫したこと

現場でしか目にすることのできない枝肉（肉のいちばん初めの形）の等身大パネルを作成し、臨場感や迫力を体感してもらっている。

保育園児向けに独自に紙芝居を作成、読み聞かせを行い、小学生向けには、各学年で習う漢字を調べて資料作りを行って分かりやすく伝える工夫をしている。

活動の成果

活動に参加した子ども達から「私達は身の回りのたくさんの命に恵まれていると実感しました」などの感想が聞かれ、普段、給食を完食できない児童が「絶対残さんと決めた！」と給食を完食したなど変化の様子が見られた。

受賞のポイント

- 県内唯一、と畜場を併設した企業の特性を活かした活動内容。
- 等身大の枝肉パネル、紙芝居等わかりやすい教材、興味をひくような手法で、子ども達が「命の大切さ」や「命を頂くことへの感謝の気持ち」などを理解しやすくする工夫がある。

鳥取県のこれからの食育で

豊かな人間性を育む食育～「栽培・料理・共食」の実践～

私たちは毎日食事をして生活していますが、その食事は、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育んでいく基礎となります。

五感すべてを使う栽培、収穫、料理などの体験を通じて、自分の手で成し遂げる喜びを積み重ねることで「生きる力」の基礎を育み、食べることは命を受け継ぐことであることを実感し、「食」や「食」を支える全ての人、自然の恩恵に対する感謝の心を養うことができます。

菜　園　活　動

社会医療法人仁厚会よどえババール園

団体の概要

所在地：米子市淀江町佐陀 2169
連絡先：0859-56-5268

活動の概要

昨年の切干大根作りを通して野菜に興味を持ち始めた園児たち。春にみんなで相談し、野菜を植えました。本当は大根を植えたかったけど今は大根を植える時期ではないと知って二十日大根を植えましたが「おいしくない」と素直な園児たち。他の野菜も鳥に食べられてなかなかできなかったり困難はありましたが、たくさんの人のアイデアで無事に収穫することができました。自分たちで育てた野菜の味を噛みしめ食べることの楽しさ、おいしさを感じました。困難を乗り越えた上にみんなと一緒に野菜も生きている、いただくことへの感謝を感じ、日々を生き生きと過ごしている園児たちの活動の様子です。

工夫したこと

保育者が決めるのではなく、園児たちの意見を聞きながら活動することで意欲的に取り組めるようにした。また、困ったことがあったら保護者にも協力してもらいながら一緒に考えていくことで家庭でも食への関心が深まるようにした。

活動の成果

野菜が苦手な子もいるが、「頑張ってみよう」という思いが芽生えたり、「家でもクッキングを一緒にしてみた」などと聞かれるようになった。

受賞のポイント

- 園児の主体性を引き出しながら取り組むことで、食に関する意欲をうまく引き出している。
- 保護者や地域の機関等との連携によって、更に広がりのある取組内容になることが期待できる。

大切にしたい２つの基本指針

食のみやこである鳥取県の特性を生かした食育

鳥取県は、都市部に比べて農林水産業の現場と消費者との距離が近く、食を身近に感じることができるといった利点があります。

四季折々の気候風土に恵まれた県内各地で米・野菜・果物などがバランスよく生産され、水産業では境港が全国でも有数の漁業基地として知られているなど、食を学び体験する環境に恵まれています。

食を通じて健やかに「生きる力」を育むために

食のみやことっとり～食育プラン～（平成 25 ～ 29 年度）より

鳥取県では、「『栽培・料理・共食』を実践し、食を通じて『生きる力』を育み、心身ともに充実した生活を実現すること」を県民の目指す姿とし、食育を推進していくこととしています。

食育を総合的かつ計画的に推進するため、県の関係組織が連携・協力しながら取り組むと共に、家庭（県民）、保育所・幼稚園、学校、生産者団体、食品事業者、地域の団体、市町村等、関係機関とともに鳥取県のこれからの食育を推進していきます。

食を通じて健やかに「生きる力」を育み、心身ともに充実した生活を実現する

基本方針

- ○豊かな人間性を育む食育～「栽培・料理・共食」の実践～
- ○食のみやこである鳥取県の特性を生かした食育

県民みんなで実践する4つの重点目標と12の目標

重点目標

- 健全な食習慣を実践する
- 食に対する感謝の心を養う
- 豊かな食文化を継承する
- 食に関する正しい知識を持つ

目標

- 家族や友人と楽しく食卓を囲む
- 主食・主菜・副菜を揃えた食事をする
- 1日3食、規則正しく食事をする
- 体験活動を通して食と農林水産業の関わりを理解する
- 食事づくりや準備に関わる
- 食事のあいさつを実践する
- 地元のおいしい食材の良さを学び活用する
- 地域の郷土料理を学び、継承する
- とっとりの食を情報発信する
- 食の安全について正しく理解する
- 食品表示を参考に食品を選択する
- 食生活と生活習慣病の関わりを学ぶ

鳥取県食育推進活動知事表彰について　http://www.pref.tottori.lg.jp/206386.htm
鳥取県食育推進計画について　http://www.pref.tottori.lg.jp/82928.htm

このみずみずしさを未来へ 鳥取県
発行 鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課　TEL0857-26-7861